

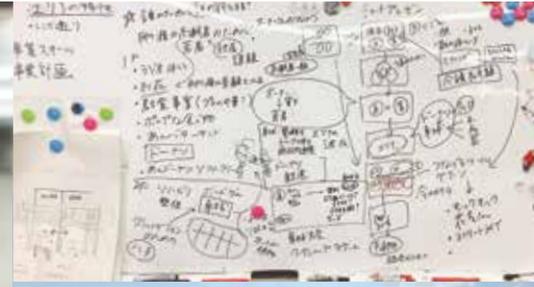
岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

学び 究め 貢献する



岐大の いぶき

2022-2023
Autumn-Winter No. 44



学生 × 地域

地域の明日を、ぼくらで創る。





1.キャンパス内の「スマート温室」。データに基づいた栽培管理、環境制御実践教育を実施 2.収穫したトマトは、大学内の直売所やカネス工岐大前店で販売 3.リアルタイムに取得した温度や湿度などのデータを用いて自動でトマトに合った環境に調節します

岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ発信する広報誌

**岐大の
いぶき**
2022-2023
Autumn-Winter No.44

published by

MAKE NEW STANDARDS.
**東海国立
大学機構**

岐阜大学

04-11 **【特集】学生×地域** 地域の明日を、ほくらで創る。

Interview 岐阜大学社会システム経営学環1年 多田 陸人 さん

Interview 岐阜大学 里山暮らし応援隊

Interview 岐阜大学 サッカー部

12-13 岐阜大学高等研究院 先制食未来研究センター

14-17 **岐大で生まれるもの。最先端研究の現場。**

岐阜大学工学部電気電子情報工学科 電気電子コース 木村 友亮 助教

岐阜大学保健管理センター 堀田 亮 准教授

18-19 **ひらけ！授業の扉**

社会システム経営学環 マネジメント活動実習

20-21 **Topics** 岐阜大学のとりくみ Jun.2022→Oct.2022

22 岐阜大学基金

地域の明日を、ぼくらで創る。
まちの最前線に飛び込んで
先駆者たちと
切磋琢磨しながら
地域を面白くしていきたい。

興味を持つきっかけは 高校での出前授業

三重県四日市市出身の僕が社会システム経営学環に進学したきっかけは、高校1年生時の出前講義でした。ゲスト講師として登壇された出村嘉史先生のまちづくりに関する話を聞いて、まちの成り立ちや地域活性化の取り組みに興味を持ち始めたのです。最初からまちづくりに興味があった訳ではなく、実は他の出前授業を受けたいと思っていました。しかし、抽選で漏れてしまい、出村先生の授業を受けたのは偶然なんです(笑)。思い返すと運命的なものを感じますが、何がきっかけで自分の気持ちや進路が変わるか分からないものですね。

そして、高校2年生の時は、1年を通して自由に課題を決めて、その成果を発表する「総合的な学習の時間」がありました。出前講義で学んだことを自分でもやってみたいと思っていたので、四日市諏訪商店街の活性化についてレポートをまとめることにしました。市役所や商工

会議所に行ってまちの歴史や統計に関する資料を集めたり、商店街の方にインタビューしたりするのは大変でしたが、自分が興味を持った領域を探求することはとても楽しく、有意義な時間でした。

それから高校3年生の秋を迎え、進路について悩んでいた頃、出村先生が出前講義で、令和3年度にビジネス、まちづくり、観光を学べる学部相当の組織を新設し、そこで教鞭をとられる予定と話されていたことを思い出し、社会システム経営学環への進学を考え始めました。そこで、受験勉強へのモチベーションを高めようと、下見を兼ねて岐阜市に向かい、岐阜大学のキャンパスや中心市街地を散策。柳ヶ瀬商店街を回っていた時に、「リノベーションスクール@岐阜」のチラシを見つけ、興味をそそられました。リノベーションスクールに携わっている岐阜市にぎわいまち公社の方から、有志の方が、まちを良くしたい、面白くしたいという思いで参加していると聞き、リノベーションスクールにも応募しました。そこで、まちづく

りに関わる受講者の強い当事者意識に刺激を受け、僕もまちづくりに携わりたと思ったのです。

リノベーションスクールに参加し リアルなまちづくりを実践

そもそもリノベーションスクールとは、リノベーションを通じた都市再生手法を学ぶ短期集中型の学校。まちなかの遊休不動産を活用するビジネスプランをまとめ、行政職員や不動産オーナーの前でプレゼンテーションをします。岐阜市も人口減少時代におけるまちづくりの手法として「リノベーションまちづくり」を推進しており、その一環として令和元年から毎年開催されています。受講生は、社会人がほとんどで、僕らのチームでは学生は僕を含めて2名。知識も経験も無いため、社会人の皆さんについていけない部分もあり、なかなかハードな環境でしたが、振り返ると思い切って受講してみて本当に良かったと思います。

僕が受講した「第3回リノベ

ーションスクール@岐阜」の対象エリアは柳ヶ瀬商店街。事前のオンライン講義で、エリアの特徴や基礎データを分析。当日は7人ほどの4つのグループに分かれ、対象となる遊休不動産を実際に見学し、オーナーからヒアリングを行いました。僕たちのグループに与えられた課題は、レンブラントビルという古いビルに新しい価値を与えること。物件や周辺の様子を見学した際に、1階のピロティが通りに向けて開かれていて、いい意味で区切りが曖昧になっているところを生かそうと考えました。

グループのメンバーと話し合った末、まとまったのが「PINPONG DONUTS」というプラン。卓球ができて、ドーナツを買える場所をピロティに設けて、ここからまちを盛り上げられないかと考えました。突拍子がないアイデアに聞こえるかもしれませんが、近くに若者に人気のコーヒーショップがあり、コーヒーと相性が良く、片手で手軽に食べられるドーナツ。誰でも気軽に遊べ、近年は健康法としても評価され



学生

柳ヶ瀬
商店街

岐阜大学
社会システム経営学環1年
多田 陸人 さん

柳ヶ瀬商店街

岐阜県岐阜市の中心部にある商店街。高度成長期には、映画館や百貨店のほかさまざまな小売店が集まり、全国でも有数の繁華街として発展した。バブル崩壊以降、郊外に大型商業施設が増えた影響などによって商業施設の閉店が相次ぎ、徐々に衰退。近年は、人気イベント「サンデービルディングマーケット」が平成26年から毎月開催され、遊休不動産を活用した店舗がオープンするなど、時代に合わせたまちづくりが進んでいる。個性やこだわりのある人の顔が見える商店街の良さを、月1回のマーケットの場で高めて良質な客層をつくったことなどが評価され、柳ヶ瀬商店街周辺のエリアリノベーションは、2022年度GOOD DESIGN賞を受賞。

ている卓球。幅広い世代が楽しめるものを追究した結果、この2つを組み合わせるとより効果的だという結論に至りました。

プレゼンテーションでは、メインのスピーカーを務めました。中間発表でいろいろと指摘を受けていたので不安がありましたが、幸いなことに審査員の皆さんから高く評価していただきました。卓球台をテーブルとしても使えるよう考えていたことや過度な初期投資をしなくても始めやすい企画だったことが評価につながったようです。「ぜひこのアイデアを実行して、老若男女が楽しめる場を柳ヶ瀬でつくってほしい」と激励されましたので、リノベーションスクール修了以降は、柳ヶ瀬商店街で毎月開催されているイベント「サンデービルディングマーケット」に合わせて、他の受講生とともに「柳ヶ瀬卓球部」と題したイベントを企画。レンブラントビルに卓球台を設置し、蒸しパンやドリンクなどの販売を行ったところ多くの方の交流が生まれ、一定の手応えを感じることができました。今

のところは単発の企画ですが、まちでの反応を確かめながら、より面白い形で展開していければと思っています。

社会システム経営学環で より学びを深めていく

1年生ということもあり、社会システム経営学環での専門的な学習はまだこれからですが、まちづくりについてより深く追究していけそうなので、とても楽しみです。今後の講義では、2年後期から企業や自治体が抱える問題の解決に1年以上かけて取り組む「デザイン実習」を頑張りたいと思っていますので、それまでに基礎的な知識や考え方を身につけたいと思っています。

実は、入学当初は四日市市の実家から気合で通っていました。ただ、さすがに往復4時間以上の通学がしんどくなり、岐阜市内の古民家でシェアハウスを始めました。社会人2人と同居していて、仕事の話の聞いたり、まちの活性化について議論したりすることもあるので刺激に

なります。一人暮らしも良い経験になると思いますが、大人と話すことを楽しめる人はシェアハウスもおすすめです。アルバイトも、リノベーションスクールで知り合った方に紹介していただいたので、面白いことをしている大人がいる場所に積極的に飛び込んでいくと、出会いや発見があって面白いと感じています。

また、起業部に所属し、顧問の上原先生や先輩方からさまざまなことを学んでいます。正直なところ現時点で起業を考えている訳ではありませんが面白そうだったので飛び込んでみました(笑)。ここでも意識の高いメンバーや学外の方と触れ合う中で刺激を受けているので、どんどん人と会ってコミュニケーションをとり、自分とは違うアイデアを吸収していきたいです。

新しい交流が生まれる場をつくり まちの活性化につなげたい

現在取り組んでいるのは、社会システム経営学環が柳ヶ瀬商店街で

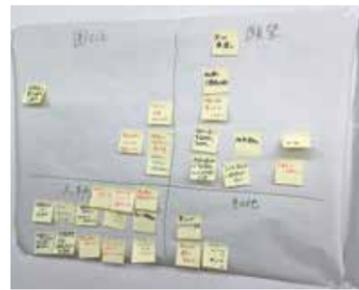
借りているビルの一室を、大学生と高校生が交流できるコミュニティスペースに改装するプロジェクト。社会システム経営学環の先輩と一緒に動いていて、今年度中には設置できる見込です。僕自身、高校生だった時に大学生と気軽に話せる場所があったらいいなと思っていましたし、大学生にとって高校生とコミュニケーションをとることで得られるものも大きいと感じています。アクセスの良さを活かしてサテライトキャンパスのように利用していければと思っているので、完成したら自習やワークショップの会場にするなど、実践しながら良いあり方を模索していきたいです。

リノベーションスクールへの参加や社会システム経営学環に入学したことで、岐阜のまちに大きな可能性を感じるようになりました。柳ヶ瀬商店街についても、すれ違う歩行者同士の肩がぶつかるほどにぎわっていた時代を知っている世代の方からすると現在の状況は寂しく感じるかもしれませんが、リノベーションまちづくりが現在進行

形で成功しているモデルケースだと思います。遊休不動産を活用して新しくお店を始める若い人が増えていますし、市民発信で始まったサンデービルディングマーケットなどのイベントも盛り上がっていて、まちづくりの会社も機能しているので、県外出身の僕からするとすごくうらやましい(笑)。数年前までこんなに岐阜のまちや人と関わりを持つとは思っていませんでしたが、折角の機会なので、より深く関わっていきたくいです。そして、これからやっていきたいのが、同世代を巻き込んでいくこと。まちに遊びに行くだけでなく、自分たちがまちづくりの当事者になることでもっと面白いことができるはず。幅広い世代と交流を図るとともに、若者同士がつながってまちを盛り上げていきたいです。

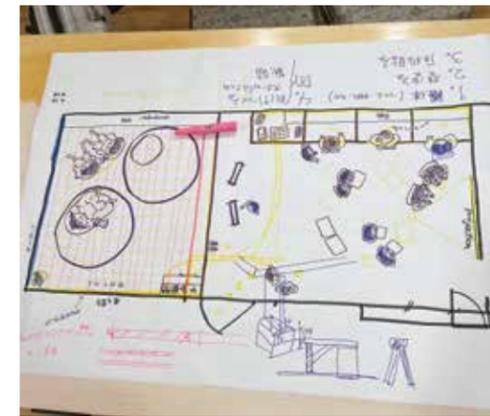
卒業後の進路はまだおぼろげですが、まずは知識を深めるとともに視野と選択肢を広げたいと思っています。また、高校生の頃はコロナもあって行きたくても行けないことが多かったのですが、全国のまちづく

りの事例を実際に見て回りたいです。そして、いつかは地元の活性化にも貢献できればと思っています。



リノベーションスクール@岐阜

複数人の受講生が1つのユニットとなり、実在する遊休不動産を対象に、全国的に実績のある講師のアドバイスを受けながらエリア再生を前提とした物件活用案を作成し、不動産オーナーへ提案する実践型セミナー。リノベーションスクールは、全国の各地方自治体で展開されており、岐阜市では「リノベーションまちづくり」を推進する一環として、令和元年から3回に渡って開催された。「リノベーションまちづくり」とは、遊休不動産と人や文化、産業などの潜在的な地域資源を組み合わせ、民間主体の取り組みにより、まちの活性化や課題解決につなげていくもの。既存資源を活用することで、解体・新築型の事業と比べ、まちの風景を残すとともに初期コストを抑え、早いスピードで事業を始められることが特徴。



社会システム経営学環の学生自らリノベーションしたコミュニティスペース。社会システム経営学環の学生だけでなく、高校生などにも開放される予定。

地域の明日を、ぼくらで創る。

現地で里山の方から学び、その地域ならではの魅力を発信していきたい。

里山地域の過疎化が進行すると、さまざまな問題が発生します

私たち「里山暮らし応援隊」は、揖斐郡揖斐川町春日地域（以下春日）の環境保全や地域活性化のために活動しているサークルです。春日は「岐阜のマチュピチュ」と呼ばれる天空の茶畑があることで知られています。現在は14人のメンバーが所属。全員が応用生物科学部所属ということもあり、自然が好き

なメンバーばかりです。毎週木曜日に定期ミーティングを行うほか、月に1回里山に足を運んでいます。現地での活動内容は、田植えの手伝いや獣害対策用の柵整備などさまざま。また、伝統野菜を使った料理をいただいたり、収穫体験をしたりすることもあります。何度も足を運んでいます。四季折々に表情を変えていく春日の自然には毎回感動させられます。ここ数年はコロナ禍で現地に行けませんでした。今年度

になってからは現地で活動を再開しています。

里山地域の過疎化はさまざまな問題を引き起こします。例えば、山地と集落の間にある里山地域から人がいなくなってしまうと、生態系が崩れて、豊かな自然環境が失われます。また、里山の居住者が減ると獣害が発生しやすくなります。そして、農業に携わる後継者もいないため、岐阜の棚田21選のひとつである、美しい「貝原棚田」も存続が危

ぶまれています。

春日に関心を持つ人を増やして現在の状況を変えていきたい

このような問題に対して、何が原因かを調べ、それに応じた対策をすることが大事だと考えています。その一つとして私たちが取り組んでいるのは春日の知名度を高めること。天空の茶畑や国歌にも出てくるさざれ石、ヨモギなどの薬草や棚田など、春日には魅力的な地域資源があります。しかし、これらが春日にあるものとして多くの人に認知されていないのも事実です。

そこで私たちは、地域資源の魅力や周辺情報をまとめた観光パンフレットやクリアファイルを作成しました。これらを揖斐川町周辺の道の駅などに設置することで、春日に興味を持ってくれる人を増やしたいと考えています。取材や撮影、デザインなどを自分たちで行うのは大変でしたが、なんとか形にできて良かったです。また、スマホで情報を集める人が多いため、年齢別のター

ゲットごとにTwitterやInstagramなどのSNSを始めました。すぐに結果が出る訳ではありませんが、私たちにやさしく接して下さる春日の皆さんのために、地道な活動を続けていきたいです。

周囲の学生も巻き込んで、自分ごととして考えてもらいたい

私たちの活動に対して家族は「今しかできない経験だから良いと思う」と応援してくれています。今後の目標は、周りの学生も巻き込んでいくこと。私たちのように研究対象が自然環境だったり自然が好きだったりする人ばかりではなく、他学部の学生にも里山の魅力や課題に興味を持ってもらえたら嬉しいです。岐阜大学には、地域との関わりに関心の強い学生が多いと思うので、そのあたりを重点的にアピールして状況を変えていきたいです。そして、少しでも多くの人に春日の素晴らしさや実情を知ってもらい、春日の関係人口を拡大していきたいと思っています。



岐阜大学里山暮らし応援隊 林 祐太郎さん

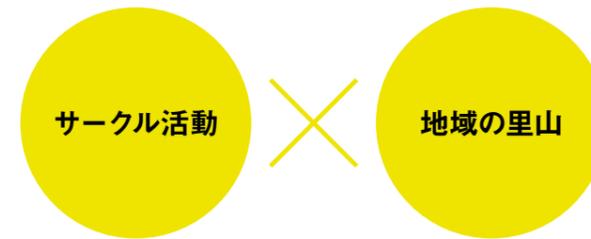
先輩がつくった観光パンフレットなどを活用して、もっと春日の魅力を発信していきたいと話す林さん。



里山暮らし応援隊のメンバーが制作した観光パンフレットとクリアファイル。春日周辺の道の駅などに設置している。



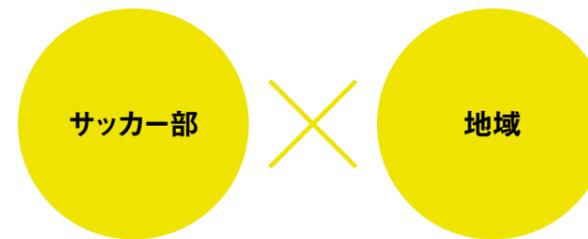
岐阜大学里山暮らし応援隊
岸 拓実 さん(右)
只井 遥菜 さん(中央右)
臼井 美里 さん(中央左)
酒井 優里 さん(左)



岐阜大学 里山暮らし応援隊

地域の活性化を目的に活動する岐阜大学のサークル。主な活動場所は、岐阜県揖斐郡揖斐川町春日地区。月に1回現地に行き、現地の農家などとコミュニケーションをとり、課題のヒアリングおよび課題解決のための活動を実践している。令和4年度は、揖斐川町在来の唐辛子「徳山なんば」の収穫や田植えなども行った。そのほか、里山の魅力をまとめた観光パンフレットやクリアファイルなどを年に1回制作。また、Instagram (@gu_satokura) やTwitter (@gu_satokura) などのSNSも活用し、主に若者世代に向けた情報発信も行っている。通称は「里くら」。





岐阜大学グラウンドで実施しているFC岐阜サッカースクール。



令和2年に三敬株式会社と契約し、ユニフォーム提供を受ける。



第1回GIFU UNIV.FESTIVAL U-9

岐阜大学サッカー部が企画した、小学校3年生以下を対象としたサッカー大会。令和3年12月18日(土)、19日(日)の2日間に渡って岐阜市北西部運動公園にて開催され、岐阜市内の28チームが参加。大会の実施に当たって営業活動を行い、岐阜城ライオンズクラブ、株式会社岐阜フットボールクラブ (FC岐阜)、三敬株式会社、株式会社ちらし屋ドットコム計4社から大会の運営資金を集めることに成功。また、当日は受付や審判、グラウンド整備など全ての運営を部員のみで行った。令和4年冬に第2回大会の開催を予定している。



岐大のいぶき 特集 学生 × 地域

令和3年度キャプテンの徳永さん、ゴールキーパーの寺内さんが中心となって、子ども向けのサッカー大会を企画した。現キャプテンの岩垣さんが後輩との橋渡し役を務めるなど、ピッチ外でのチームワークも抜群。

岐阜大学サッカー部
岩垣 心 さん(左)
徳永 悠大 さん(中央)
寺内 秀一 さん(右)

地域の明日を、ぼくらで創る。

チームメイトと力を合わせ、より良い成績を目指しながら地域に貢献していきたい。

強い想いが多くの人を動かし、大規模なサッカー大会を実現

岐阜大学サッカー部は、現在25名の部員が所属し、東海学生サッカーリーグ2部への昇格を目指して日々練習に励んでいます。また、令和3年度より「繋一仲間・地域と共に歩む」という理念の下、地域貢献活動を始めました。ただ、地域社会のためになることがしたいという思いは強くあったものの、自分た

ちに何ができるのか模索する時間も必要で、具体的な活動内容がなかなか決まりませんでした。

そんな時、学内外のさまざまな方に相談する中で生まれたのが小学校3年生以下を対象としたサッカー大会を開催するというアイデア。サッカー大会を催すことで、子どもや保護者の皆さんに喜んでもらえるのではと考えました。部活動の大会がオフシーズンになる12月に開催することになり、スポンサー

への営業活動や、大会運営の準備を開始。全てが初めての経験だったので、顧問の上田先生に相談しながら進めましたが、FC岐阜が普段練習している芝生のグラウンドが会場になり、28ものチームが参加することに。さらに当日には岐阜市長も来てくださるなど、当初考えていたよりも大きな大会になりました。準備や運営は大変でしたし、課題も残りましたが、たくさんの子どもの笑顔が見られ、保護者から「ぜひ来年も開催してほしい」と声をかけていただき、本当にやって良かったです。子どもの頃は何も考えずに参加する側でしたが、その裏で大会を企画・運営されていた関係者の気持ちや大変さが分かりました。大会に協賛してくださったスポンサーへの報告資料を作っていた時、両親から「これで大人の苦勞が分かったやろ?」と言われ、心から「はい」と思いました(笑)。

地域貢献活動の経験がチームワークにもつながる

サッカー大会の運営以外では、平

成29年から岐阜大学がFC岐阜と協定を結んでいる関係で、FC岐阜が運営するサッカースクールにコーチとして部員を派遣しています。教育学部に所属する部員が多いこともあり、僕たちも子どもと触れ合うことで学ぶ点が多いです。また、令和2年度からはチームの体制を改めて見直し、「総務部」「審判部」「広報部」に各部員を配属し、組織的な部活動運営を行っています。各自に役割を与えることで、責任感を持って自分の仕事に取り組んでもらい、組織をスムーズに運営することが狙いです。競技において

も地域貢献活動においても柔軟に対応できるチームになりたいです。そして、今後はユニフォーム提供やWEBサイト制作などでお世話になっているスポンサーのためにも良い成績を残すことが大事です。「学生をサポートすることが企業のイメージアップにつながるから」と皆さんが支援してくださり、大変ありがたいのですが、競技面では期待に応えられていないのが現状。地域貢献活動での経験がサッカーにも生かされると思うので、どんどん新しいチャレンジをして両方の可能性をより広げていきたいです。



顧問・監督を務める上田准教授は「サッカー大会の運営やスポンサー獲得活動は、部員たちにとっては社会人になる前に、社会を経験する良い機会になったと思います。ただ、少しやっただけでは大きく成長できませんので、地域貢献活動を継続して、人間力を高めるとともにチームワークや競技力の向上にもつなげてほしいです」と話す。

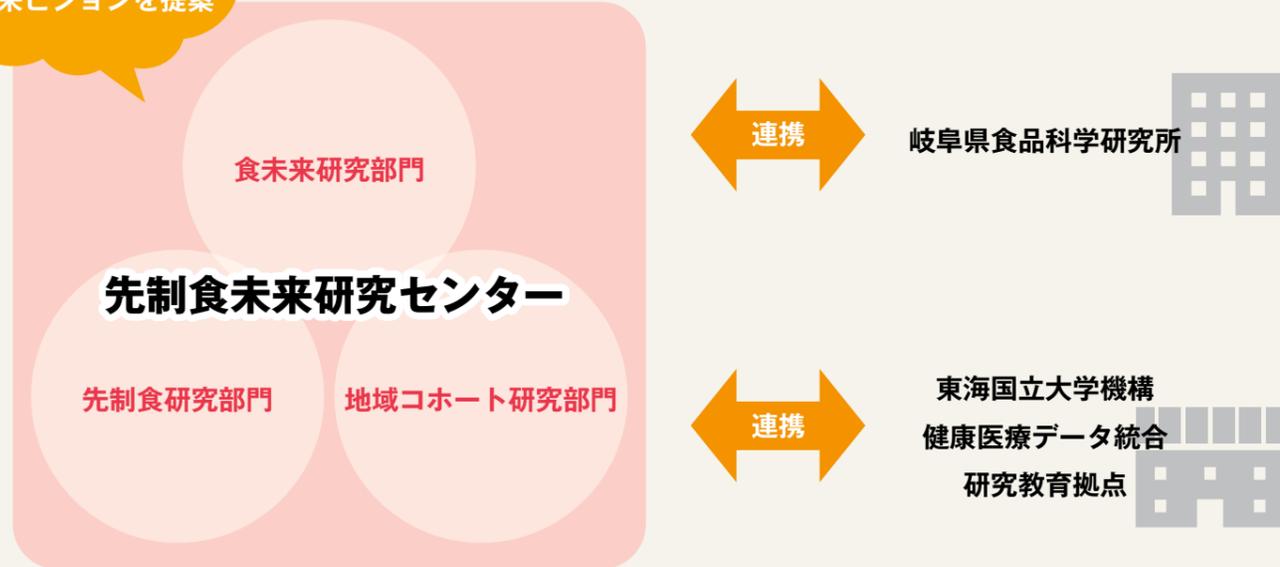
岐阜大学教育学部保健体育講座
上田 真也 准教授



岐阜大学高等研究院 先制食未来研究センター

人類の食の
未来ビジョンを提案

New!



「人類の食未来ビジョン」として『ガストロノミーマニフェスト(食革新)』を提案。

今年4月に設立された先制食未来研究センターは、令和3年の高齢化率が29.1%と世界で最も高い「超超高齢社会」に突入した日本において、喫緊の課題である健康寿命の延伸を実現するために立ち上げられた組織です。寝たきり・要介護の入口となるフレイル、サルコペニア、認知症、生活習慣病の重症化を予防する対策として、老化の進行を遅らせる役割を果たす「食」に焦点を当て、「人類の食未来ビジョン」として「ガストロノミーマニフェスト

(食革新)」を提案することを目標に掲げています。センターの名称にある「先制食」という言葉には、「食べ物で先に病気を制する」という意味が込められています。最近、「プレジジョンニュートリション(個別化栄養)」という考え方が注目されています。食物繊維をたくさん食べる人は大腸がんになりにくいという研究結果がありますが、一方で、大量に食物繊維を摂取すると下痢を引き起こす人がいます。一般的に良いとされていても、

個人にとって最適な栄養素は異なります。そこで、個性を考慮したうえで、最適な栄養を考えようというのが「プレジジョンニュートリション」です。私たちもこの考え方を踏まえ、「より良い食事とは何なのか」を突き詰めたいと思っています。センターには大きく3つの部門があります。「地域コホート研究部門」では、高山市、飛騨市、下呂市の協力のもと、厚生労働省が実施する特定健診やレセプトデータを活用した研究を展開します。人工知能研

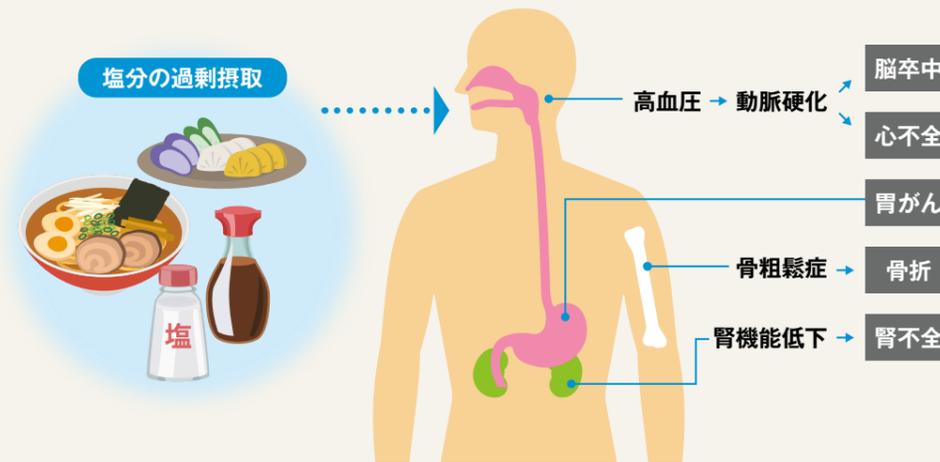
ガストロノミーマニフェスト(食革新)の一例

● プレジジョンニュートリション(個別化栄養)



オーダーメイドの食事療法。個人の体質に応じた栄養を摂取することで健康寿命の延伸を図る。例えば、ゲノム情報をもとに個人の体質に合った最適な栄養摂取量を推測し、コンピューターがそれに合ったレシピを提案。ウェアラブル端末や便などから得られるデータをもとに、より個別化の精度を高めていく。

● 人工塩味料の開発



未来には…

塩の代わりに人工塩味料を使うことでストレスなく減塩

人工塩味料

究推進センターと協働でAIによる分析を行い、その地域の食生活と病気のかかりやすさを調べ、食べ物と病気の関係性を明らかにします。「食未来研究部門」では、食べ物と病気のつながりを明らかにしたうえで、「なぜ悪いのか」「どうすれば良くなるのか」について考え、文化面・精神面における有用性も加味しつつ、生活の質を高める食を考えていきます。さらに「先制食研究部門」では、実生活の中でどのように振る舞えばいいのかという解決策を、実際の食べ物の提案に至るまで、より踏み込んだ形で具体的に提示していきたいと思っています。健康のために食事を制限するの

は、多くの人にとってストレスです。だからこそ私たちは、普段の生活の中で無理なく実践できる方法を提案したい。一つの解決策として検討しているのが「人工塩味料」の開発です。塩分を摂取せずに塩味を感じられる調味料ができれば、ストレスなく健康寿命を延ばせます。また、毎日の食べ物のデータをウェアラブル端末が自動で収集し、より良い買い物を提示してくれるといったシステムの開発も構想中です。一人ひとりの個性を考慮しながら、本人が意識しなくても食生活が改善され、健康寿命が延びる。まるで夢物語のようですが、センターの活動を通じてそんな未来を創り上げたいと思います。



岐阜大学高等研究院 先制食未来研究センター 矢部 富雄 センター長

CO₂レーザーを使った加熱技術を応用し、惑星の内部構造を調査する新たな手法を開発。

CO₂レーザーを使った加熱技術を高温高圧実験に応用することで、透明な物質を効率的に加熱する手法を確立。

アンモニアの超イオン状態を創出しました。

この加熱技術を用いて、惑星の内部構造を調査する新たな手法を開発。

地球マントルの進化過程や超イオンが天王星、海王星の内部に存在することを解明しました。

こうした研究で得られた知見を、地球惑星科学だけでなく材料科学にも応用し、幅広い分野に貢献していきたいです。



岐阜大学工学部
電気電子・情報工学科 電気電子コース
木村 友亮 助教

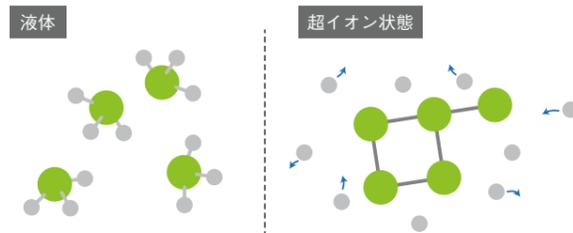
世界初の加熱装置を開発して超イオンを作り出しました。

学生の頃、「エネルギー問題の解決に貢献したい」という思いから、核融合工学の研究室に所属していました。当時、この分野では、高い温度圧力環境における物質の振る舞いを理解することが重要な課題でした。私は、高温高圧環境下の水やアンモニ

アが「超イオン」状態になる研究予想があることを知り、強い興味を抱きました。ここでの超イオン状態とは、酸素や窒素は固体でありながら水素イオンだけが液体のように振る舞う状態のことを意味しています[図1]。しかし、透明な物質を効率よく加熱する方法がなかったため、これらの超イオン状態は実験的に確認されていませんでした。

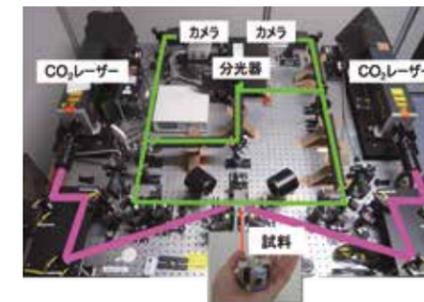
私は透明な物質を効率よく加熱するために、CO₂レーザーに注目しました。これまで当該分野で用いられてきた近赤外線レーザーとは違い、波長が長いCO₂レーザーを使うことで透明な物質も含めて、均一に加熱できるようになります。私は岐阜大学へ赴任する以前に、CO₂レーザー光源を2台配備する世界初の加熱装置を開発しました[図2]。この装置と

図1 液体と超イオンの違い



酸素や窒素が固体のように格子構造を保ち、水素イオンが高速で移動する状態。

図2 CO₂レーザー加熱装置



ダイヤモンドを使った高圧発生装置を用いて、地球内部の代表物質である酸化マグネシウム(以下MgO)を50万気圧の圧力環境で加熱したところ、5600℃という超高温の発生に成功しました。そしてこの温度で、MgOが融解することが分かりました。このことから、MgOが地球内部のマントル*を構成する鉱物の中で最も高い融点を持つことが明らかになりました。この結果は、内部が溶けていた初期の地球のマントルが固化する進化過程を解き明かす、重要な発見となりました。

アンモニアの超イオン研究で得られた知見がEV車バッテリーの高容量化に役立つと考えています。



CO₂レーザーを使った透明物質の加熱実験を成功させた後に、アンモニアの超イオンを探索する研究を行いました。しかし、アンモニアの超イオンが予想される温度圧力環境を作り出すことには成功しましたが、その物質が超イオン状態であることを証明する方法がありま

せんでした。世界初の状態だけに、誰もそれを評価することができません。そこで私は「硬さ」に注目しました。液体と固体が混ざったような状態であれば、超イオンは「通常の固体よりも圧倒的に柔らかいだろう」と。レーザーを使った光散乱分光技術を使って実際に硬さを調べたところ、アンモニアの超イオンは液体に匹敵するほど非常に柔軟であることがわかりました。そして、このアンモニアの超イオンは、天王星と海王星の内部に存在できることが明らかになりました。これらの惑星は、他の太陽系惑星とは異なり、磁場軸が地軸に対して大きく傾いた不思議な磁場を示します。イオン伝導性があり、かつ柔軟なアンモニアの超イオンの存在がこの特殊な磁場の生成に関わっているかもしれないのです。

私が情熱を注いできた超イオン物質は、地球惑星科学の分野だけで

なく、私たちの身近な暮らしにも応用できる可能性を秘めています。固体でありながら液体に匹敵するイオン伝導性を持つ超イオンは、次世代電池の電解質材料として期待されています。超イオンを用いた全固体電池は、従来のリチウムイオン電池よりも安全性に優れているため、設計を簡略化できて大容量化が期待できます。今、化石燃料に頼らない脱炭素社会の実現に向け世界中で電気自動車の普及が求められる中で、電池の大容量化が必須とされています。その課題解決のために、アンモニアの超イオン研究で得られた知見が役立つと考えています。これまでに培ってきた知識と経験を活かし、学生時代からの悲願である「エネルギー問題の解決に貢献する」という目標を成し遂げたいと思います。

* マントル
地球の中心(核)と地殻の中間にある層。主に岩石から成る固体。

令和4年度 科学技術分野 文部科学大臣表彰 「若手科学者賞」受賞



木村友亮助教は、「CO₂レーザー加熱技術の地球惑星科学への応用に関する研究」において、この加熱手法が地球惑星科学のみならず幅広い分野で応用されることが期待され、文部科学大臣から表彰を受けました。「若手科学者賞」は、独創的な視点に立った研究など、高度な研究開発能力を示す顕著な研究業績をあげた40歳未満の若手研究者を対象に贈られる賞です。

心の状態を数値として可視化。 変化の激しい時期にある、 大学生のメンタルヘルスを研究。

岐阜大学保健管理センターは、岐阜大学に通う学生と職員の健康をサポートする組織です。私は学生のメンタルヘルスに関する研究を行い、その成果を、臨床心理士としてのカウンセリングに活かしています。



岐阜大学 保健管理センター
堀田 亮 准教授

CCAPSを学生の カウンセリングに活用。

大学時代は心理的成長が大きい半面、不安定な時期になります。私はそんな大学生特有の心理ストレスを捉えるため、目には見えない心の状態を数値として見える化するCCAPS[※]と、平成27年にアメリカの学会で出会いました。その場でCCAPSのオリジナル版開発者に直接「日本語翻訳版を開発したい」との思いを伝え、開発の許可を得まし

た。平成28年から平成29年にかけて国内の11大学、約2,700人の学生にアンケートを実施。回答結果を統計解析し検証を重ねた結果、平成31年から実用化しました。

CCAPSは学業ストレスなど大学生特有の項目が網羅され、国際比較ができ、研究というステップを経て実用化された日本初のツールでした。初年度は紙のアンケートで運用し、支援が必要な学生の面談までに1カ月近くかかりました。令和2年から専用のWEB回答システムを実

装、即座に結果をフィードバックし、必要なタイミングでカウンセリングを行います。

毎年の健康診断では、全学年を対象にCCAPSを活用した調査を実施、大学生のメンタルヘルスに関するビッグデータを収集しています。QRコードを読み取り、55問の質問に回答すると、「抑うつ」「全般性不安」「社会不安」「学業ストレス」「食行動」「敵意」「家族ストレス」「飲酒」の計8分類のストレスと「希死念慮」の強さが採点されます。健康診断時

の結果、抑うつや不安の数値が高い学生には、カウンセリングを促すメッセージと保健管理センターの連絡先が画面に表示されます。希死念慮が強い人にはやや強くカウンセリングを促します。カウンセリングに訪れた学生は、毎回CCAPSで心の状態をチェックし、前回とのデータ比較から心の変化を確認できます。

CCAPSは、カウンセリングを行う我々や学生自身の理解にも役立ちますが、さらに「語られない主訴」を明らかにする効果もあります。例えば、カウンセリングでは勉強の話をしないのに、CCAPSで学業ストレスが高いとなれば、解消するための支援につなげます。

コロナ禍が心理面に与えた影響をCCAPSによって明らかに。



CCAPSを利用した学生への調査結果をもとに、コロナ禍における大学生のメンタルヘルスの実態を明らかにしました。特に新入生にはコロナ禍前の平成31年と拡大直後の令和2年、1年後の令和3年を比較しました。その結果、「抑うつ」「不安」の数値は、平成31年から令和2年にかけて一旦下がり、令和3年には平成31年と同水準に戻りました(図1参照)。私たち大人と同様、初めて経験する感染症拡大に、令和2年の新入生も不安以前に「何が起きたか分からない」状態だったと推察できます。

一方、「学業ストレス」に関しては平成31年よりも感染症拡大直後の令和2年の方が上がり、令和3年には元の水準に下がっています。オンライン授業が始まった直後は、適応が難しいと感じる学生が多かったと考えられます。「死にたい気持ち」(希死念慮)については、コロナ禍の前後を比較すると、強く思う学生が増えている半面、そう思わない学生も増加。コロナ禍がメンタルヘルスに及ぼした影響が二極化していることがうかがえます。心の状態は常に変化しており、こ

の調査結果はあくまで入学直後の一時的な状態です。しかし、先行研究が感染症拡大後に調査を開始しているのに対して、この研究結果はコロナ禍前からの変化を把握できる点で大きな意義があります。今後も引き続きデータを収集し、コロナ禍とそうでない時期を比較し、大学生全般の心の傾向を見ていきます。研究と支援を両輪と捉え、CCAPSを導入した他大学や国際比較などにより、地域や学部による特徴を見つけ出すことで支援につなげたいと思います。

毎年、新入生向けのセミナーでは「大人になることは、誰かに頼る力を身につけること。自分で対処することも大切だけれど、できないときは人に助けを求めてほしい」と話します。友人や家族、先生でもかまいません。その人たちに言えないことがあれば、カウンセラーを頼ってほしい。岐阜大学の学生が適切に心の支援を受け、「ここに入学して良かった」と思える充実した大学生活を送ってほしいと願っています。

※CCAPS
Counseling Center Assessment of Psychological Symptoms: 大学生のための心理・精神症状評価尺度。開発者は、ペンシルバニア州立大学のベン・ロック博士。



WEBサイトから学生が質問に答えると、回答終了と同時に結果を判定。ストレスを抱えた学生には、カウンセリングを促すメッセージが表示される。リアルタイムでフィードバックできるシステムは堀田准教授が企業と共同開発し、全国で初めて導入した。CCAPSの結果は、回答した直後にレーダーチャート(グラフ)で表示。カウンセリングのたぎに行うチェックで、線で囲まれた面積が前回より減っていれば心理状態が改善されていることが視覚的に分かる。

図1 抑うつ、全般性不安、学業ストレスの推移

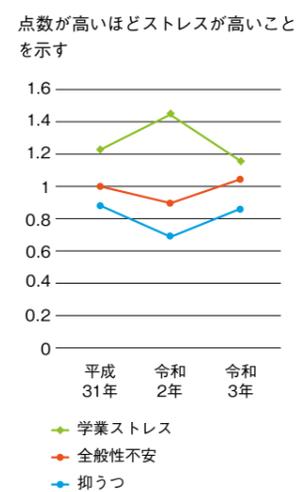
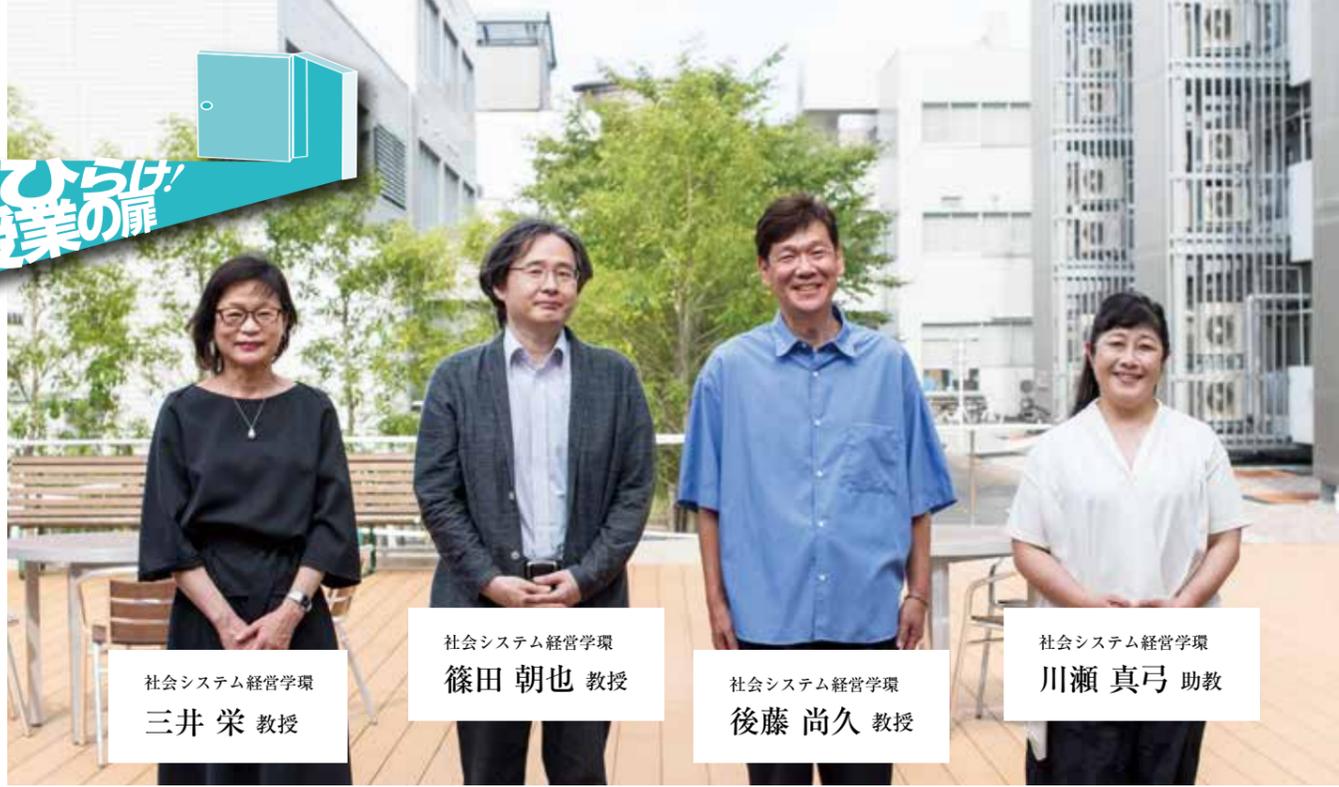


表2 希死念慮の推移

「死にたいと考えることがある」の各評定値につけた人数の割合

評定値	平成31年	令和3年
0	67.5%	69.4%
1	16.1%	15.3%
2	11.1%	8.5%
3	4.5%	5.1%
4	0.7%	1.6%

0:全く当てはまらない
4:かなり当てはまる



社会システム経営学環
三井 栄 教授

社会システム経営学環
篠田 朝也 教授

社会システム経営学環
後藤 尚久 教授

社会システム経営学環
川瀬 真弓 助教

社会システム経営学環 マネジメント活動実習

入学直後からスタートする1年半の実習で、「ビジネス」「まちづくり」「観光」を実践的に理解。

社会システム経営学環は「ビジネス」「まちづくり」「観光」を対象に、経営・マネジメントを学ぶ学部相当の組織です。教室での講義とビジネスの現場を往来する「往還型教育」により、現場の課題を意識しながら学べるのが特徴で、最初に現場を経験する機会が「マネジメント活動実習」です。

前半は「ビジネス」に関する学びとして、「名古屋証券取引所の実習」を実施。直前まで高校生だった学生が、株式の仕組みや証券取引所の役割を学習。世の中にはどんな企業があるのか、投資家が企業を評価するための財務データの見方、企業が業績を上げるために行う取り組みなど、企業に関連する問題を理解することが目的です。実習は4人1組のチームで行い、極力初対面の学生同士が組み、リーダーシップやチーム力を磨ける場としています。

マネジメント活動実習

対象学生：社会システム経営学環（必修科目） 履修期間：1年次前期～2年次前期（全31回）

令和3年度に開設された社会システム経営学環の学生が、入学直後から履修する実習。前半の「名古屋証券取引所の実習」と後半の「地域ベースの実習」により、社会と企業の仕組みや自治体の役割を理解し、経営を読み解く力とマネジメント力、情報発信力、プレゼンテーション能力を実践的に習得する。

後半では「まちづくり」「観光」に関する学びとして、「地域ベースの実習」に取り組みます。具体的には、社会システム経営学環の情報誌を制作し、高校生や地域の人々に向けて、社会システム経営学環とそれを取り巻く地域の魅力を発信します。情報誌の制作プロセスを通じて、まちを知るとともに、自治体や公的施設などプレイヤーの役割への理解を深めます。また、読者が喜ぶ誌面の工夫や取材活動を通じて、社会で不可欠な配慮力を習得。執筆や写真撮

影などの誌面制作では、学生たちが将来、多様な場面で応用できる情報発信力を獲得します。

学生からは、一般消費者があまり知らない優良企業を発見したり、情報誌制作に自分のアイデアを活かすことができる点が好評です。非常に頭を使うカリキュラムですが、「100万円あったら、どこに投資する？」「プレゼンテーションでは笑いを取ろう！」など、私たち教員も遊び心を大切に、学生たちが楽しんで取り組めるよう工夫を凝らしています。

名古屋証券取引所の実習

1年次前期に実施。事前の講義で、投資家が企業を評価する際の指標となる財務データについて学んだうえで、名古屋証券取引所を見学します。さらに、投資家向けのイベント「名証IRエキスポ」(令和3年度はオンライン開催の「名証IRセミナー」)に参加し、企業へのインタビューも行います。「自分ならどの企業に投資するか」という視点で企業を評価する経験を通じて、「財務指標から考えるのと、インタビューしたのでは、同じ企業でも違う印象を受けた」といった声も。学生が企業への理解を深める様子が見て取れました。



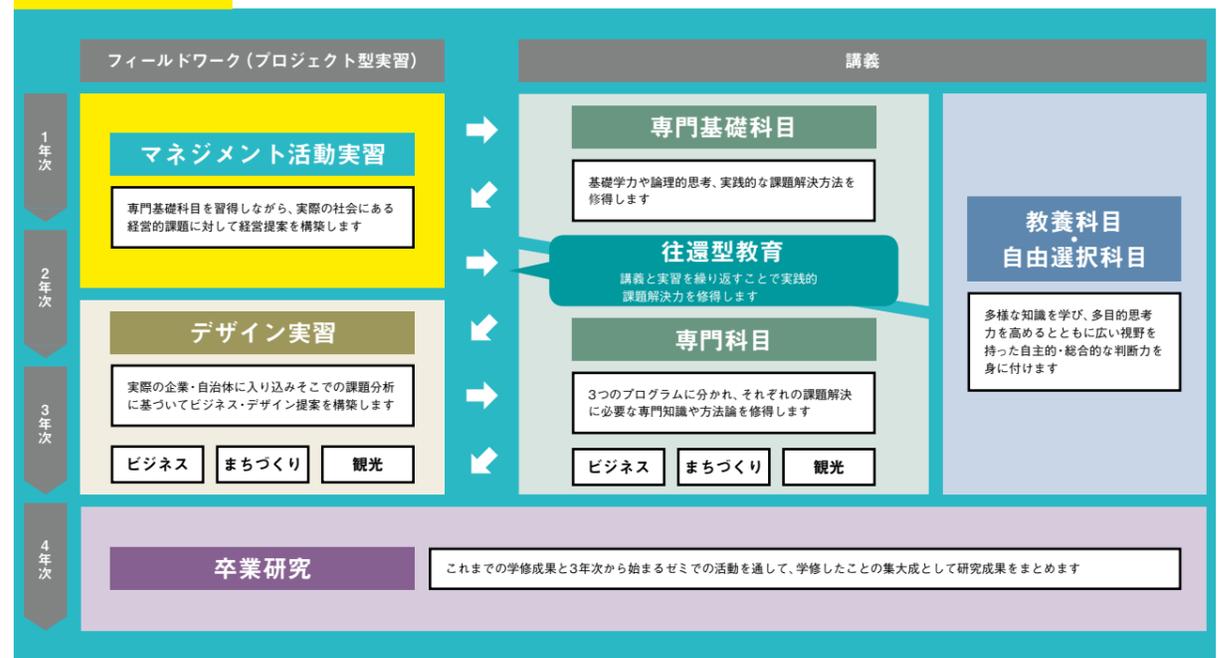
地域ベースの実習

1年次後期と2年次前期に実施。社会システム経営学環の情報誌を制作します。広告会社で情報誌制作に携わる講師から講義を受け、コンペ形式で内容を企画。令和3～4年度は、岐阜市役所新庁舎と、図書館や交流センターから成る施設「みんなの森 ぎふメディアコスモス」の紹介記事や岐阜駅～岐阜市庁舎間のグルメマップを制作。学生が自ら取材先を選定して交渉し、取材・撮影から記事の制作を行いました。まちづくりと観光を理解して情報を発信する活動に熱心に取り組み、ゼロから作り上げる達成感も味わいました。



制作した社会システム経営学環の情報誌。

カリキュラム



第73回創立記念日行事を開催しました

令和4年6月1日(水)

今年度の同窓会連合会会長表彰では、本学卒業後、パイロットインキ株式会社に入社し、消せるボールペン(フリクションボール)のインクの開発を行った中筋憲一氏、本学卒業後、広江国際特許商標事務所(現:弁理士法人 広江アソシエイツ特許事務所)を開設され、平成13年に特許庁長官表彰として知財功労賞、平成23年には黄綬褒章を授与された廣江武典氏を表彰しました。



「産学連携教授」の称号記および「産学連携重点研究室認定書」の授与式を行いました

令和4年6月1日(水)

【産学連携教授】

- 松下 光次郎 工学部 准教授

【産学連携重点研究室】

- 矢部 大介 大学院医学系研究科 教授
- 久武 信太郎 工学部 産学連携教授

本学は、これらの産学連携を推進する制度により、今後も研究成果の社会還元を行っていきます。



「多様な研究者と拓く岐阜の未来プロジェクト」連携型共同研究助成において、5名の女性研究者の研究課題が採択されました

令和4年6月8日(水)

【令和4年度連携型共同研究助成採択者】

- 岡田 彩加 応用生物科学部 助教
- 古山 浩子 工学部 准教授
- 小山 真紀 流域圏科学研究センター 准教授
- 柴田 奈緒美 教育学部 助教
- タンマウオン マナスィカン 応用生物科学部 准教授



本学教育学研究科を修了した赤松諒一さんがアメリカ・オレゴン州で開催された2022年世界陸上に出場しました

令和4年7月15日(金)～24日(日)、10月10日(月・祝)

赤松諒一さん(現アワーズ株式会社所属、本学医学系研究科研究生)が7月15日(金)～24日(日)(現地時間)にかけて、アメリカ・オレゴン州で行われた「2022年世界陸上競技選手権大会」の男子走高跳に日本代表選手として出場。また、10月10日(月・祝)に特別講師として公開講座を本学で行い、県内の小学生約30人に実技指導などを実施しました。

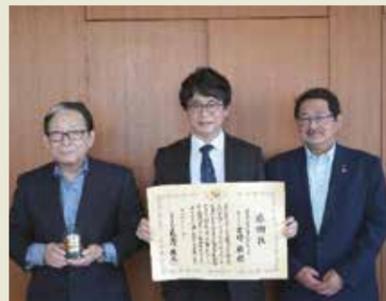


公開講座で背面飛びを披露する赤松さん

岐阜大学の教員が各種表彰を受けました

令和4年6月1日(水)

工学部 吉野 純 教授が
気象庁長官表彰を受賞



令和4年8月10日(水)

大藪千穂 副学長
(多様性・人権・図書館担当)が
第8回女性技術者育成成功労賞を受賞



令和4年9月22日(木)

工学部 リム リーワ 教授が
日本分析化学会女性 Analyst 賞を受賞



大野町、坂祝町、関ヶ原町と連携に関する包括協定を締結しました

令和4年6月から10月にかけて大野町、坂祝町、関ヶ原町と連携に関する包括協定を締結しました。この協定は、本学と各自治体が多様な分野で包括的に緊密な協力関係を築き、持続的・発展的に一層連携を深めることにより、活力ある地域社会の形成・発展及び未来を担う人材育成に寄与することを目的としています。今後、本学は各自治体と地域創生に向けて共に取り組んでいきます。

令和4年6月29日(水)

大野町と連携に関する包括協定を締結



令和4年10月5日(水)

坂祝町と連携に関する包括協定を締結



令和4年10月31日(月)

関ヶ原町と連携に関する協定を締結



岐阜大学の学生が各種表彰を受けました

令和4年6月11日(土)

本学学生チームが
「Tongaliビジネスプランコンテスト2022」で
最優秀賞等を受賞



令和4年9月23日(金)

本学環境サークルG-ametが
「ともいきSDGsシンポジウム チャレンジアワード東学」
において東海学園賞を受賞



サステナブルキャンパス評価システム(ASSC)におけるプラチナ認証を受けました

令和4年7月16日(土)

本学は一般社団法人サステナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)が主催するサステナブルキャンパス評価システム(ASSC)においてプラチナ認証を受け、7月16日(土)に行われた認定証交付式にて、朴恵淑代表理事より認定証が交付されました。平成26年の本システム始動後、ASSCへの回答提出校(試行含む)は延べ103大学ありますが、プラチナ認定を受けたのは本学を含め4大学のみです。



地域活性化人材育成事業に採択されました

令和4年10月25日(火)

文部科学省が公募する令和4年度大学教育再生戦略推進費「地域活性化人材育成事業～SPARC～」に、本学が事業責任大学となり申請した「ぎふ地域創発人材育成プログラム～地域活性化を目指した知的基盤の確立～」が採択されました。本プログラムでは、参加校である中部学院大学および岐阜市立女子短期大学とともに各種の取り組みを実施し、地域社会の発展へ貢献することを目指します。



多くの皆様から岐阜大学基金へ ご寄附をいただき、心より お礼申し上げます。

岐阜大学基金創設の趣旨

本学が、更なる飛躍発展を遂げ、地域社会からの信頼と期待に応え、地域社会に貢献できる大学としての責任を果たすためには、流動的・機動的資金の運用が可能である基金が必要であることから、平成21年6月に創立60周年記念を契機として「岐阜大学基金」を創設いたしました。
この基金は、多くの皆様のご協力により、学生に対する奨学金や国際交流事業、特色ある研究活動への支援、地域社会への貢献事業、キャンパス整備など継続的な教育研究活動に活用することとしております。

ご寄附者芳名録

令和4年3月から令和4年9月末までに「ご寄附いただいた方、掲載をご了承いただいた方を五十音順に感謝の意を含め、ご紹介させていただきます。また、10月以降にご寄附をいただきました方につきましては、次号にて掲載させていただきます。なお、本学役職員につきましては割愛とさせていただきます。
岐阜大学における新型コロナウイルス感染症対策を含む学生支援、国際交流、特色ある研究活動及び地域貢献などを充実・発展させるために、なお一層の岐阜大学基金へのご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

浅野 弘 様	岩田 哲夫 様	鹿島 近 様	阪上 幸男 様	高見 浩三 様	野村 弘 様	箕浦 秀樹 様
浅野 勝己 様	岩田 元 様	加藤 果鈴 様	坂口 卓藏 様	田口 隆志 様	橋本 淳一 様	宮口 博明 様
東 修次 様	岩間 武久 様	加藤 利純 様	坂倉 健男 様	竹内 康浩 様	早崎 雅人 様	宮田 幹二 様
天野 常男 様	上田 直和 様	加藤 規康 様	坂下 盈彦 様	武田 照之 様	林 貞子 様	見山 政克 様
天野 洋和 様	上田 元信 様	加藤 肇 様	坂田 茂子 様	田島 尚 様	林 慎二 様	宮本 俊輔 様
新家 範夫 様	上野 康定 様	門脇 涉 様	佐々木 堂 様	田中 茂 様	林 睦齊 様	三輪 實 様
安藤 香織 様	宇野 智之 様	金森 吉信 様	笹俣 清明 様	田中 堯 様	原 和行 様	三輪 靖夫 様
安藤 敏行 様	鷗野 善雄 様	川井 広一 様	佐藤 博司 様	田中 治彦 様	平田 博則 様	三輪 精博 様
安藤 祉博 様	江崎 攝 様	川嶋 充園 様	佐藤 安昭 様	棚橋 忍 様	平野 加代子 様	向井 讓 様
安藤 嘉彦 様	大蔵 捷直 様	河根 規雄 様	佐藤 政雄 様	棚橋 直勝 様	廣江 達雄 様	武藤 泰敏 様
飯田 辰美 様	大田 璋 様	北山 則子 様	茂野 一彦 様	棚橋 靖行 様	藤井 ゆかり 様	鎧 敏夫 様
飯田 俊行 様	太田 正之 様	鬼頭 千尋 様	柴田 智司 様	谷口 和規 様	藤井 裕美子 様	森脇 久隆 様
石田 博昭 様	大坪 和寿 様	久世 和奈 様	柴田 創一 様	谷口 緑理 様	藤代 勝 様	安田 聡 様
石塚 達夫 様	大野 紀雄 様	久世 猛 様	柴山 知之 様	谷村 兼行 様	伏見 知彦 様	安田 直彦 様
磯貝 惠一 様	大福 紀雄 様	國枝 正義 様	清水 宏晏 様	玉井 い津菜 様	舟橋 まゆみ 様	柳瀬 浩之 様
磯野 良平 様	大町 深雪 様	久野 正雄 様	下岡 靖宜 様	田村 昌一 様	船橋 満 様	矢野 治久 様
市岡 尚実 様	岡 二三生 様	倉本 弥生 様	下平 友人 様	塚本 吉宣 様	星野 昭 様	山口 多朗 様
市川 幹雄 様	岡崎 正樹 様	桑原 富子 様	榎葉 正志 様	柴山 茂 様	細田 文一 様	山田 耕平 様
伊藤 三雄 様	岡田 和明 様	郡司 壽幸 様	菅沼 広茂 様	鳥居 ひとみ 様	堀尾 勝幸 様	山中 實 様
伊藤 利夫 様	岡田 正康 様	小曾 克 様	杉浦 彦展 様	長井 茂明 様	牧野 守 様	山本 哲也 様
伊藤 友春 様	小川 隆幸 様	五島 説司 様	鈴木 章敬 様	中飯 田尚邦 様	増原 豊 様	山本 敏貴 様
伊藤 登 様	冲野 邦彦 様	小島 孝博 様	鈴木 尚充 様	中島 健二 様	松原 保 様	山本 典生 様
井藤 はづき 様	奥田 哲司 様	五藤 健次郎 様	鈴木 博幸 様	中根 進 様	松原 秀樹 様	山本 浩典 様
伊藤 秀久 様	奥田 晏弘 様	後藤 稔 様	鈴木 裕久 様	中橋 規宏 様	松本 俊明 様	横山 真也 様
伊藤 雅彦 様	小栗 敬彦 様	小林 隆 様	鈴木 博幸 様	中村 孝雄 様	松本 康 様	吉川 利彦 様
井上 敦夫 様	尾関 富彦 様	小林 房代 様	鈴木 安治郎 様	名和 武彦 様	間部 浩二 様	吉田 博史 様
井上 健太郎 様	小田 啓介 様	小林 雄作 様	住田 光夫 様	仁木 俊夫 様	馬淵 静香 様	米谷 敏 様
井上 進 様	小田 泰崇 様	小見山 輝人 様	関谷 行子 様	西野 佳秀 様	三浦 靖成 様	六郷 惠哲 様
今井 康博 様	小幡 浩治 様	子安 正昭 様	高木 正巳 様	野崎 真司 様	水野 智章 様	
岩瀬 明彦 様	梶浦 哲嗣 様	斎藤 秀樹 様	高田 輝明 様	野田 龍雄 様	溝口 敏博 様	
岩田 和彦 様	梶原 雅也 様	三枝 弘和 様	高橋 睦 様	野々垣 實 様	三谷 省造 様	

他159名様

法人・団体等

アビ株	(株)オンダ製作所	(株)テイコク	はやし内科クリニック
天野エンザイム(株)	(株)岐阜セラック製造所	(有)デルタ・システム	飛騨ミート農業協同組合連合会
(株)天野企画	(株)クレスト	ドマーニ神戸クリニック	(有)ふるはし動物病院
石川動物病院	(株)三和商会	中垣動物病院	箕浦ビル(株)
(一社)インフォカート未来基金	数島製パン(株)	中日本建設コンサルタント(株)	美濃窯業(株)
イビデン物産(株)	獣徳会	長良サイエンス(株)	(株)ユニオン
オリザ油化(株)	(有)立松家具	名古屋青果(株)	若鈴コンサルタンツ(株)

他4法人

岐阜大学基金についてのお問い合わせ先

国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学Development Office (DO室)
〒501-1193 岐阜県岐阜市柳戸1番1
TEL 058-293-3276 FAX 058-293-3279 E-mail kikin@gifu-u.ac.jp



岐阜大学基金の詳細については、WEBをご覧ください。
<https://www.gifu-u.ac.jp/fund/>

岐阜大学 2023 カレンダー を作成しました

この度、岐阜大学では大学オリジナルカレンダーを作成しました。自然豊かな本学キャンパスの四季折々の美しい風景が楽しめる、見ているだけで心が癒やされるカレンダーとなっています。

本カレンダーは非売品として、令和4年12月1日~令和5年3月31日の間に岐阜大学基金へご寄附いただいたすべての方にお送りさせていただきます。美しい岐阜大学をお楽しみください。



Glocal Lessonで

教養の学び直しをしませんか?

会員登録
無料!

「Glocal Lesson」は、岐阜大学グローバル推進機構が提供する学習プログラムです。異文化教育に関連する、語学や芸術、SDGsやビジネスなど、幅広い分野のコンテンツを主にオンラインで配信しています。会員登録は無料。どなたでもご視聴いただけます。スキルアップや教養の学び直しに是非ご活用ください。



オンライン講座例

気になる話題について、
大学教授がわかりやすく伝えます。
月額2,500円(税込)のサブスクリプション
による有料会員サービスに登録すると
配信中動画とリアルタイム配信動画が見放題です。

WEBサイトは
こちらから



岐阜大学クラウドファンディングへご支援をお願い致します

本学では、教育研究活動等の更なる推進のため、クラウドファンディングを活用したプロジェクトを実施しています。皆様のご支援を通じて、質の高い教育の提供や、本学の研究を一層発展させ、地域社会のみならず国際的な課題解決に貢献してまいります。本学の多様なプロジェクトへ、皆さまの温かいご支援をお願い申し上げます。

募集中のプロジェクト

教育学部 今井 亜湖 教授

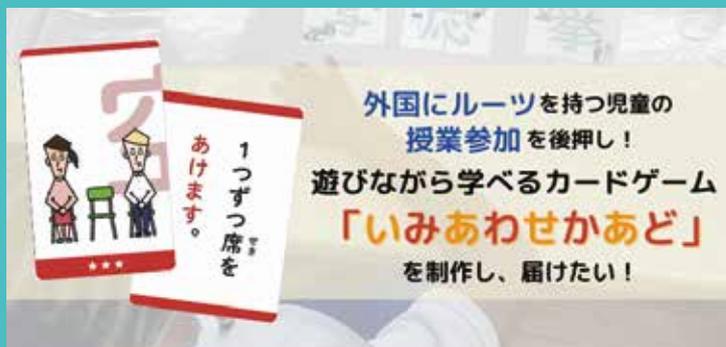
外国にルーツを持つ児童が遊びながら学べる「いみあわせかあど」制作を

募集期間 令和4年12月16日(金)～
令和5年1月31日(火)

プロジェクトへのアクセスはこちらから
http://readyfor.jp/projects/imiwase_cards

いみあわせかあど レディーフォー

検索



本プロジェクトへのご寄附は、税制優遇が受けられます。

岐阜大学クラウドファンディングについてのお問い合わせ先
国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学研究支援課研究資金第一係
TEL : 058-293-2370 / E-mail : cfg@gifu-u.ac.jp



新しいプロジェクトも順次公開予定!

詳しくは、岐阜大学クラウドファンディング
WEBサイトをご覧ください。

アンケートに答えて 岐阜大学オリジナルグッズを GET!!



今後のよりよい誌面作りのため、皆様からのご意見やご要望をお待ちしています。岐阜大学広報誌「岐大のいぶき No.44」に添付されたアンケートハガキでアンケートにご協力いただいた方の中から、**抽選で6名様**に学生がデザインを考案した**「岐阜大学マスキングテープ(2種類)」**を進呈いたします。プレゼントをご希望の方は、アンケートハガキにお名前、ご住所、電話番号をご記入ください。

プレゼント応募締切:

令和5年5月31日(水) 必着

※当選者の発表は、プレゼントの発送をもって代えさせていただきます。※重複のご応募は無効とさせていただきます。



「岐大のいぶき」について

「いぶき」は、滋賀・岐阜県境にある伊吹(いぶき)山と生氣・活気を意味する息吹をかけて名付けられました。岐阜大学のある濃尾平野には、“伊吹おろし”と呼ばれる強い季節風が吹き込みます。これになぞらえ、本誌には、岐阜大学の活力(いぶき)を地域から世界へ感じさせたいという願いが込められています。

■発行：国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学広報企画室

■「岐大のいぶき」についてのご意見ご感想をお待ちしております。

送付先 / 国立大学法人東海国立大学機構岐阜大学総務部総務課広報室広報グループ

〒501-1193 岐阜市柳戸1番1 TEL 058-293-2009 / 3377 FAX 058-293-2021

Email kohositu@gifu-u.ac.jp

岐大のいぶきは WEB からご覧いただけます!

<https://www.gifu-u.ac.jp/about/publication/publications/ibuki.html>



岐阜大学公式
Twitter
やっています。

@GifuUniv_PR

TWITTER, TWEET, RETWEET and the Twitter logo are trademarks of Twitter, Inc. or its affiliates.



こちらからアクセス!